

HIV/SITs 検査への物理的・心理的・経済的バリアを低くし、検査へのアクセスを向上させることを主眼として立案・実施している。すなわち、当院は都心に位置し、平日夜間・土日曜日の検査が可能である。臨床心理士もしくは看護師による、リスク評価・軽減を主眼とした検査前後相談を施行している。ダイナスクリーンによる HIV1/2 抗体のほか、MSM において問題となる梅毒 (TP 抗体)、B 型肝炎 (HBs 抗原) を併せた 3 種の即日検査と検査前後の相談をパッケージとし、1 回の検査相談費用を 3,675 円に設定している (保険診療外、自費)。なお当院における検査相談は、「保健所等における HIV 即日検査のガイドライン」(HIV 検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究、2007 年)に沿って施行している。

検査結果

2010 年 1 月から 2010 年 12 月までの受検者数 (MSM) と HIV 抗体陽性者数の月別推移を図 6 に示した。306 名の MSM が当院で HIV/STIs 検査相談を受検し、そのうち 24 名 (7.8%) が HIV 抗体陽性であった。ダイナスクリーンは偽陽性が含まれるため、陽性時には確認検査を実施する必要があり、翌週に最終結果を告知する。24 名中 22 名が確認検査結果のために再診し、当院を含む医療機関を受診した。CD4 値中央値は 272/ μ l (21 名) であった。

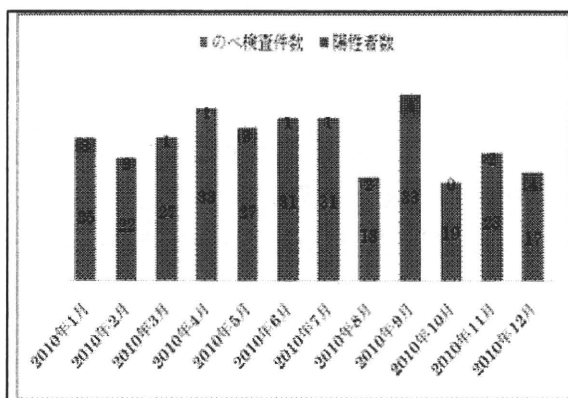


図6 HIV/STIs検査相談を受検したMSM及び陽性者の月別推移(2010年1月-12月)

考察

当院は、セクシュアル・マイノリティを対象としたクリニックであり、当院を保険診療で受診したセクシュアル・マイノリティの中では MSM が最も多く占める。2010 年に受検した MSM 306 名のうち、24 名 (7.8%) が HIV 抗体陽性であり、保健所等 (0.29%, 2009 年) に比較し高い捕捉率である。陽性判明時に、直ちに心理的及び医療的な介入を行い、当院を含む医療機関への受診をスムーズに行うことが可能であった。当院を含む民間クリニックは、リスクを有する集団への HIV 検査相談の提供する場として、活用されるべきであると考えられた。

a-3. 相談体制の整備-HIV 検査で陽性が判明した患者への受診支援の整備等-

首都圏を中心にエイズ電話相談を実施している機関、特に MSM を対象とした相談が可能な機関を調査し、承諾を得て、HIV マップ、啓発資料等への掲載等を通じて広報した。

a-4. 評価調査体制の整備と調査実施:

1. 戦略研究参加施設における受検者数把握に関する調査と受検者の動向に関する質問紙調査 (5 分間アンケート)

2007 年度より、東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、藤沢市の各自治体に対して、エイズ予防のための戦略研究の趣旨を説明し、「受検者数把握に関する調査」「受検者の動向に関する質問紙調査」に協力していただける保健所を募集した。また、東京都医師会を通じて性感染症サーベランス定点となっている医療機関を対象に戦略研究の参加を募集した。更に、HIV 検査の実績がある医療機関に対して、協力依頼を行った。2008 年度には千葉県域の全保健所、千葉市、柏市、船橋市、川崎市、横須賀市が戦略研究の協力施設として加わった。2009 年度には、北区保健所と台東保健所の 2 保健所が新たに加わった。主要評価調査に協力した保健所等は最終的に 81 会場 (うち MSM 定

点保健所等 39 会場)、クリニック等の医療機関は 9 施設であった。

2. RDS (Respondent Driven Sampling) 法を用いた携帯電話と情報端末による首都圏の男性同性愛者 (MSM) を対象とした質問紙調査

首都圏の MSM を対象とする本調査はゲイバー等の商業施設、サークル系の代表者、NGO との協力により実施した。

「HIV/エイズをめぐる、ちょっと面倒な、だけど大切な調査キャンペーンが始まります。MEN-DO キャンペーン『携帯電話アンケート』が始まります。」として7月から11月末までの間に RDS 調査が実施された。文化系サークルイベント (出演者、観客全員に依頼)、体育会サークルイベント (参加者全員に依頼) に参加協力依頼し、2ヶ月間にそれぞれ 160 件、60 件を回収した。また、Living Together 計画では、HIV をめぐる現状についてのメッセージを広げるイベントや広報を新宿 2 丁目で行ってきた。ここで実施しているイベントの参加者、関係者に RDS 調査の協力を依頼し、8月より実施し 121 件の回答を得た。これらサークルや LT 計画での RDS 調査の回答について、2008 年度からの経年的な推移を含め、層別分析を進めている。

RDS 調査の特徴である紹介層別 (調査起点を 1 層、それ以降を 2、3、4 層とする) に分析したところ、第 1 層の受検率が高く、層が遠くなるにつれて低くなっていくことが示された。最終年度においても、HIV 検査受検の促進を目標に広報戦略を展開、介入を継続実施してきた。RDS 調査の結果は今後、HIV 検査受検が向上するか、戦略研究により開発・普及させた資材の入手や認知と検査行動の関連、層別の受検経験が 2 層、3 層以降においても向上しているかを介入の効果指標の一つとして位置付け、データを詳細に分析する。

HIV 検査の受検経験や性行動にはサークル

系、LT 計画において違いが見られる。啓発資材に関して、2010 年度は昨年度より認知が上がっていた。

HIV 検査の受検経験は、全体で生涯では 72.8% (2009 年度調査 72.6%)、過去 1 年間では 27.6% (2009 年度調査 30.9%) であった。各基点別には、生涯では 69.8% - 76.7% (2009 年度調査 66.7% - 78.2%) で各サークル系と Living Together 計画でやや異なっていた。過去 1 年間の受検経験率も体育会サークルが 30.2% (2009 年度調査 27.0%)、文化系サークルが 28.9% (2009 年度調査 30.2%)、Living Together 計画が 24.8% (2009 年度調査 33.6%) でやや異なっていた。

3. 首都圏の男性同性愛者 (MSM) 向け商業施設や、商業誌やインターネットサイトの利用者、イベント参加者を対象とした質問紙調査

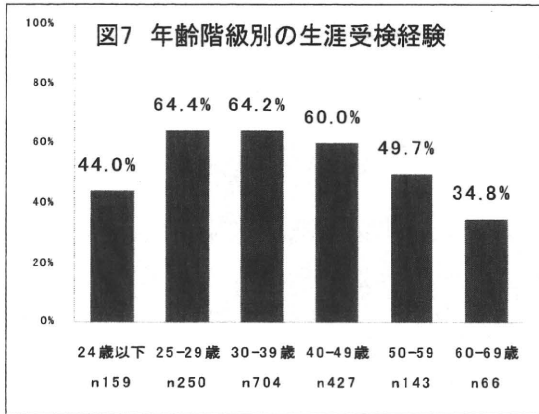
首都圏の MSM 向け商業施設利用者を対象とした質問紙調査を平成 23 年 2 月 3 日 (木) ~ 2 月 27 日 (日) の間、新宿、新橋、上野、浅草、野毛のゲイバーで実施した (有効回収数 n=1,749)。首都圏在住のゲイ・バイセクシュアル男性および MSM を対象として、それぞれ 24 歳以下、25-29 歳、30-39 歳、40-49 歳、50-59 歳、60-69 歳の年齢層別に、MSM における検査行動について分析を進めた。集計結果を表 7 に示した。

生涯での HIV 抗体検査受検割合は全体で 59.1% と高い割合であり、各年齢層別には 24 歳以下が 44.0%、25-29 歳が 64.4%、30-39 歳が 64.2%、40-49 歳が 60.0%、50-59 歳が 49.7%、60-69 歳が 34.8% であった。20 歳代、50 歳以上の年齢層は他の年齢層にくらべて低い割合であった (図 7)。

過去 1 年間の HIV 抗体検査受検割合は全体で 27.7% であり、50 歳以上の年齢層で他の年齢層にくらべて低い割合であった。

過去 1 年間に受検した検査場所 (複数回答)

は首都圏の保健所が多く 45.6%、次いで病院が 22.1%、診療所・クリニック・医院が 21.2%であった。



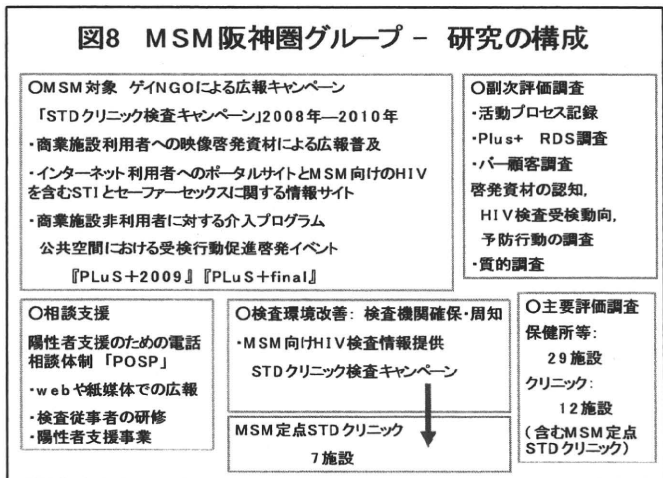
また生涯受検経験がない回答者の「これまでに HIV 抗体検査を受けなかった理由」について、全体では「HIVに感染している可能性がない」が最も高く 40.9%、次いで「機会がなかった」が 37.9%、「結果を知るのが怖い」が 28.8%であった。年齢層別には 39 歳以下では「機会がなかった」が 43.2%-47.7%と最も高く、40 歳以上では「HIVに感染している可能性がない」が 48.2%-60.6%と最も高い割合であった。

4. 首都圏におけるゲイおよびバイセクシュアル男性の情報ネットワークと HIV 受検行動の実態、および、受検に伴う行動変容に関する質的調査

本調査では、首都圏に在住する 40 代以上の MSM に対して訴求性のある啓発資料の開発に有用な因子を明らかにし、これらの年齢層への介入プログラムの資料とするものである。平成 21 年度に続き、上野・浅草、新橋の商業施設に訪問し、その利用者を対象にした啓発のニーズを探った。

b. 阪神圏地域の MSM を対象にした研究

昨年度までに構築した STD クリニック等での MSM 対象の検査キャンペーンを 5 月から 12 月末まで実施し、Web を介した啓発広報、商業施設を介した啓発広報、公共空間における受検行動促進啓発イベント『PLuS+FINAL』での啓発広報により、STD クリニック 7 機関での受検促進を図った。また、検査機関における MSM の受検者数把握のための調査についての協力機関との調整、コミュニティ内での本研究広報資料の認知を評価する調査の実施を進めた。阪神圏での研究体制を図 8 に、2010 年度までに実施してきた研究内容の概要を表 3、表 4 に、2010 年度までのプログラム実施状況を図 9 に、また 2010 年度の活動内容を時系列で表 6 に示した。



b-1. HIV 検査受検行動を促進するための啓発 資材・プログラムの開発と普及：

HIV 検査受検行動を促進するための啓発資材・プログラムの開発と普及について、本年度実施した内容を以下に示す。

1. 商業施設利用者に対する介入プログラム
商業施設利用者に対する介入プログラムとして、クリニック検査キャンペーンの広報資材(12350部)配布と、コンドームや検査情報が掲載されたポストカード等をセットにした予防啓発資材(15330セット)を配布した。

クラブ利用者へ、ジャケットに検査情報が掲載された特製 CD (1000 枚)、コンドームや検査情報が掲載されたポストカード等をセットにした予防啓発資材(15330セット)を配布した。

1) クラブパーティ会場における受検行動促進啓発(ナイトプロジェクト)

ナイトプロジェクトでは既存のクラブイベントとの連携により、エイズ予防戦略研究のロゴ等の周知を図る事業を実施している。本年度は、計6回のナイトプロジェクトを実施し、ジャケットに検査情報が掲載された特製 CD (1000 枚)、コンドームや検査情報が掲載されたポストカード等をセットにした予防啓発資材(350セット)を配布した。

2) ハッテン場における受検行動促進啓発プログラム

ハッテン場利用者に対して HIV/STI の知識・意識・態度の向上を図るための情報資材の開発と配布を行った。本年度は、これまでに構築できた阪神圏地域の33店舗のハッテン場とのネットワークを通じ、ポスターやクリニック検査キャンペーンの広報資材を配布した。

2. インターネット利用者に対する介入プログラム(Webプロジェクト)

インターネット利用者に対する介入プログラムとして阪神圏のゲイ・バイセクシュアル男

性に向けたポータルサイトと MSM 向けの HIV を含む STI とセーファーセックスに関する情報のインターネットサイトを、前年度に引き続き展開した。

エイズ予防戦略研究を促進する目的で、PC および携帯電話双方に対応した大型 Web サイトを運営した。本年度も「MASH web 大阪」「dista.b」「SSI(セーファーセックスインフォ)」「PLuS+FINAL」のコンテンツの継続的な整備、広報を行った。

「dista.b」では様々な阪神圏地域のゲイ向けの施設、HIV エイズの相談窓口、サークル等 HIV/AIDS 関連団体の情報を集約して掲載した。予防や検査情報に積極的にアクセスしない層を誘引するコンテンツの充実も図った。その結果、同ホームページのアクセス数は約 5000~約 8000/月(パソコンと携帯電話の総計)のアクセス数を継続的に得た。「dista.b」のホームページから戦略研究で実施されている検査促進に関するキャンペーンへのアクセス数は約 1000~約 2000/月(パソコンと携帯電話の総計)のアクセス数を継続的に得た。

3. 商業施設非利用者に対する介入プログラム
1) 一般街頭における受検行動促進啓発プログラム

このプログラムは、ゲイ向け商業施設利用者のみならず、非利用者に対しても予防情報を提供することを目的としている。本年度は実施していない。

2) 公共空間における受検行動促進啓発プログラム(PLuS+FINAL)

PLuS+FINAL(平成22年10月10日)では、ステージ、展覧会、ブース展示、シンポジウム、ワークショップなど総合的なプログラムが企画され、ステージプログラムの中では検査場の情報や予防啓発情報の広報が行われた。協賛参加団体は、FOLLOW(陽性者 NGO)、NPO・CHARM、chotCAST なんばなどの16団体の NGO に加え、

ゲイ商業施設、ゲイ雑誌、コンドームメーカーなど 27 団体が参画した。

PLuS+FINAL 会場の周辺 5 箇所、流入人口を計数した結果、来場者数は延べ 14,142 人であり、来場者実数 6,320 人（うちゲイ・バイセクシュアル男性約 4,000 人）を集めた。

b-2. 検査体制の整備と拡大：

昨年度に続き、大阪府、大阪市の自治体エイズ担当者にエイズ予防戦略研究への協力を依頼したが、現状の検査体制を変更することは容易ではなかった。しかし本研究期間には間に合わなかったが、来年度より大阪府は一部の保健所の HIV 抗体検査に即日検査を導入し、受検者数の増加を図る方針であり、研究協力の呼びかけが奏功したといえる。また、2009 年 9 月に中止となった土曜日常設検査は、2010 年 7 月より再開された。

研究班員・川畑拓也（大阪府立公衆衛生研究所）が中心となって STD クリニック等における検査機会拡大のための体制構築を進め、2007 年度は 3 クリニックと連携し、2008 年度は 7 クリニックに増やすことができた。協力医療機関は大里クリニック、そねざき古林診療所（旧大国診療所）、岩佐クリニック、高田泌尿器科、亀岡クリニック、田端皮膚泌尿器科、菅野クリニックである。

クリニックベースの検査キャンペーンは前年度と同様、5 月から 12 月までを受検できる期間として、引き続き検査機会の拡大を図った。本年度キャンペーンにおける参加者数は 263 名（33 件/月）で、前年の 34 件/月とほぼ等しい検査件数となった。また HIV 陽性率は、20 歳代 4.5%、30 歳代 7.2%、40 歳代 5.9%、50 歳代 7.7%、全体では 5.7%であった。

また、予防啓発を行っても HIV 検査会場になかなか足が向かない MSM にも受検機会を設ける目的で、PLuS+FINAL の会場において HIV 即日検査会「MaQ」を、大阪市保健所を初め、様々

な組織との協働で実施した。MaQ においては、通常の HIV 検査と異なりリスク査定を行い、より HIV 感染リスクの高いと思われる PLUS+FINAL 来場者（MSM 以外も含む）に対し、限られたリソース（定員）である即日検査を提供した。MaQ の参加者は 214 名、リスク査定により受検することになった人数は 172 名、途中キャンセルが 3 名で最終的な受検者数は 169 名となった。迅速検査による一次スクリーニング検査と確認検査の結果、抗体陽性者は 6 名となり、陽性率は 3.6%であった。

なお、クリニック検査キャンペーン実施前より、大阪府では一般診療所における針刺し事故等 HIV 暴露事故への対応が不十分であることが判明し、診療所等で HIV 検査を勧奨してもらうにはその対策が必須と考え、2008 年度に大阪市、大阪府へ対策の要請を実施した。その結果、2009 年度末には府内全域の一般医療機関における HIV 暴露事故時に利用可能な「一般病院における針刺し事故時の HIV 感染予防に対する受け入れ病院一覧について」（<http://www.pref.osaka.jp/chikikansen/aids/harisasi.html>）が整備された。

b-3. 相談体制の整備

-HIV 検査で陽性が判明した患者への受診支援の整備等-

阪神圏では MSM を対象にしたエイズ電話相談機関が限られており、特に陽性者に対応した電話相談体制が脆弱な環境にあった。このことから本研究では東京で実績のある NPO・ぷれいす東京に電話相談体制構築について委託し、岳中美江（財団法人エイズ予防財団/NPO・CHARM）を中心とした陽性者支援のため体制「陽性者サポートプロジェクト関西」を組織した。2007 年 10 月から週 1 回の電話相談を実施している。また 2009 年 8 月から新陽性者を対象としたグループプログラムを開始した（図 10）。

図10 阪神圏の相談体制・支援体制の整備
MSMの受検行動や受療行動を支援する相談体制を整備する
POSP(陽性者サポートプロジェクト関西)を組織

POSP電話相談【⇒陽性とわかった人のための電話相談】 毎週水曜日19時～21時	
ひよっこクラブ【⇒陽性とわかって間もないひとへのグループミーティング】 1期3回のグループミーティング	
カンファレンス【⇒陽性者支援に関わる人々のネットワーキングと情報共有】	
保健師研修【⇒検査・相談に関わる保健師の研修や自主勉強会への協力】	
2007	●POSP電話相談【相談件数10件】
2008	●POSP電話相談【相談件数36件】 ●カンファレンス【開催回数3回、参加者計74名】 ●大阪市保健師研修【実施協力1回】 大阪市保健師自主勉強会【実施協力1回(6回連日)】
2009	●POSP電話相談【相談件数34件】 ●ひよっこクラブ【実施2期 参加者計11名】 ●カンファレンス【開催回数2回、参加者計41名】 ●保健師研修【実施協力1回】 大阪市保健師自主勉強会【実施協力1回(3回シリーズ)】 ¹⁰
2010	●POSP電話相談【相談件数28件(1月21日現在)】 ●ひよっこクラブ【実施3期参加者計12名】 ●保健師研修【実施協力1回】 大阪市保健師自主勉強会【実施協力1回(6回シリーズ)】

陽性とわかった人のための電話相談の2010年度合計件数は2011年1月時点で28件であった。利用者の内訳は、陽性者本人8件、スクリーニング検査結果陽性1件、陽性者のパートナーや家族4件、その他15件であった。開設2007年10月から現在までの相談件数累計は108件であった。その内訳は、陽性者本人56件、スクリーニング検査結果陽性9件、陽性者の周囲の人10件、その他33件であった。陽性者本人の相談に多く含まれた内容は、周囲の人へ感染について知らせること、仕事や学業、病気の見通し、医療費、身体障害者手帳、病院選択、他の陽性者の様子、服薬、セックスライフ等であった。

また2008年度から開始した相談員の育成を継続した。本年度は1名の新たな相談員が育成され、現在4名の相談員が実務している。研修者1名がオンジョブトレーニング中で、もうすぐ研修を終える予定である。

約1年半の準備期間を経て2009年度に開始した感染を知って間もない人を対象としたグループプログラム「ひよっこクラブ」については、昨年度の2期に引き続き、本年度は4期の実施計画とした。このプログラムは、HIV陽性とわかって間もない時期によりよいスタートを切るための支援を目的としており、陽性者を含む2人のスタッフが進行を手伝いながら実

施する全3回の少人数制グループミーティングである。第3期は2010年6月から実施し参加者4名(うち1名は1回目みの参加)、第4期は2010年10月から実施し参加者2名(参加予定3名のうち1名欠席)であった。第5期は2011年2月開始予定で参加者6名の予定である。参加申し込み数が定員を超えたため、3月から次の期を実施予定である。每期終了後にスタッフ候補者も含めたスタッフ全体で振り返り会を開催し、プログラム継続には必然であるスタッフ育成にも努めている。

電話相談およびひよっこクラブの利用者向け資料は、対象者にプログラムの存在を知ってもらえるように陽性者に接する検査機関や拠点病院等に配布している。MASH大阪の協力により商業施設への配布もされた。

昨年度から再構築をしていたwebサイトを、今年度はじめにリニューアルオープンし、電話相談とひよっこクラブの周知を図った。また検査体制の整備と拡大グループとの連携を進め、大阪府立公衆衛生研究所にて実施したHIV確認検査で陽性であった受検者への結果報告用紙に電話相談やひよっこクラブの案内を同封し、陽性と知った本人に医師等から渡してもらおうシステムとした。またMASH大阪が毎月発行しているSaL+には、電話相談の広報掲載をしている。感染を知る前の人へ陽性とわかった後の支援サービスについて周知することも陽性者への周知と同時に重要と考えている。

地域の陽性者の支援者ネットワーク構築を目的に年に数回実施していたカンファレンスは、これまでに多様な立場で陽性者に関わる人たちが参加し、情報交換やネットワーク構築の場として必要性が認識されたため、地域の他機関が主体となった継続を期待し、本年度は陽性者サポートプロジェクト関西主催では実施しないことに決定した。その結果、年に一度NPOの活動報告・交流会を主催している関西HIV臨床カンファレンスが、支援者のネットワーク

構築の機会という主旨も組み込んで、今後当報告・交流会を臨床カンファレンス会員以外にも案内を拡大して開催することが決定した。本年度1月に開催された。

昨年度に引き続き、大阪市保健師研修(1日)や大阪市保健師自主勉強会(全5回)等への協力を行い、地域支援における保健師の役割を一緒に考え、検査相談時や陽性者の相談・支援環境の向上に努めた。

昨年度より、陽性結果時の共通ツールとしての冊子作成について行政に働きかけ、検討会議の継続開催に協力してきた。大阪府下の全都市・政令都市(大阪府・大阪市・堺市・東大阪市・高槻市)が協働で発行する方向となった。東京都の陽性結果時の支援冊子「たんぼぼ」を活用することに決定し、東京都の定めたたんぼぼ使用ガイドラインに基づき、支援サービス等の変更部分についての検討を重ねている。本年度中の発行予定である。発行後は、全保健所・保健センター、検査所、拠点病院および一般病院、NPO等に配布し、陽性結果通知時等に使用可能となる。

b-4. 評価調査体制の整備と調査実施：

1. 阪神圏の保健所・公的機関・医療施設における HIV 検査受検者の動向と受検者数把握に関する質問紙調査

大阪府では課題2の研究が平行して進められてきたため、「受検者数把握に関する調査」「受検者の動向に関する質問紙調査」の実施にあたっては、課題1と課題2が関連した依頼となっていた。また課題1の本研究では、評価調査に加え、検査機会拡大や相談体制との連携構築について、大阪府、大阪市の一部の保健所、HIV検査機関、STDクリニック等に協力を依頼することを計画していた。これらの協力依頼による混乱を避けるため、大阪府、大阪市およびSTDクリニック等の機関には評価調査に係る協力依頼を先行することとした。大阪府、大阪市の

自治体に対してエイズ予防戦略研究の趣旨を説明し、保健所等の HIV 検査機関において、「HIV 検査受検者数の動向調査」、「エイズ抗体検査受検者へのアンケート調査」の協力依頼を行った。なお、課題2では大阪府内の STD クリニックにおいて同調査への協力依頼を行っている。

2009 年度に課題2が中止となったため、「受検者数把握に関する調査」「受検者の動向に関する質問紙調査」の実施機関を調整することが必要となり、本年度は保健所等 29 施設、クリニック等 12 施設(含む MSM 定点 STD クリニック 7 施設)で実施することとなった。

2. 阪神圏の男性同性愛者(MSM)向け商業施設や、商業誌やインターネットサイトの利用者、イベント参加者を対象とした質問紙調査-1

PLuS+会場への流入者数を把握することを目的とした調査「ちえっくん」を実施している。

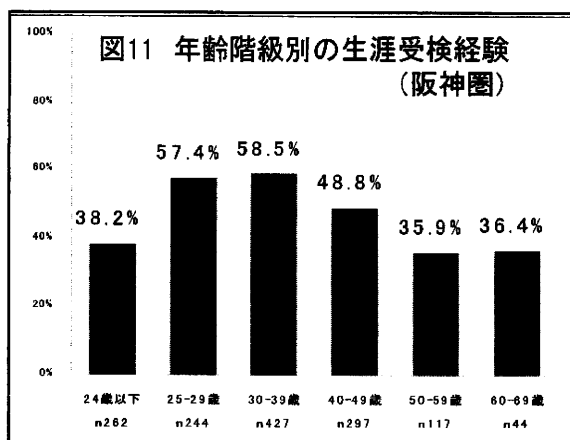
PLuS+会場の来場者の流入回数、性的指向、阪神圏に居住する MSM の商業施設利用についてなど、2008 年度 2009 年度と同様の方法で『PLuS+FINAL』会場参加者を対象に実施した。総計 1,149 名から有効回答を得た。同時に実施した会場への流入人口調査から、来場延べ数は 14,142 人であり「ちえっくん」の回答から平均 2.24 回のリピート参加があることから実参加者数は 6,313 人と推定された。来場者の年齢は 20 代・30 代が多く、平均年齢は 33.5 歳であった。全来場者の 63.2% (推定数 3,989 人)が自らのセクシュアリティを「ゲイ」または「バイセクシュアル」と自認している男性であった。また、阪神圏在住の「ゲイ・バイセクシュアル男性」は全回答者の 47.9% (N=550) であり、3,023 人と推定された。阪神圏在住の「ゲイ・バイセクシュアル男性」の 39.3% (推定 1,188 人)が、今回始めて PLuS+に来場した人(初回来場者)であった。

阪神圏在住の「ゲイ・バイセクシュアル男性」

生涯の HIV 抗体検査受検割合は 66.7% (2008 年 66.0%、2009 年 63.6%) であり、過去 1 年間の受検割合は 36.2% (2008 年 36.9%、2009 年 32.6%) であった。

3. 阪神圏の男性同性愛者 (MSM) 向け商業施設や、商業誌やインターネットサイトの利用者、イベント参加者を対象とした質問紙調査-2
 阪神圏の MSM 向け商業施設利用者を対象とした質問紙調査を平成 23 年 2 月 3 日 (木) ~ 2 月 27 日 (日) の間、大阪のゲイバーで実施した (有効回収数 n=1,391)。阪神圏在住のゲイ・バイセクシュアル男性および MSM を対象として、それぞれ 24 歳以下、25-29 歳、30-39 歳、40-49 歳、50-59 歳、60-69 歳の年齢層別に、MSM における検査行動について分析を進めた。集計結果を表 8 に示した。

生涯での HIV 抗体検査受検割合は全体で 49.8% と高い割合であり、各年齢層別には 24 歳以下が 38.2%、25-29 歳が 57.4%、30-39 歳が 58.5%、40-49 歳が 48.8%、50-59 歳が 35.9%、60-69 歳が 36.4% であった (図 11)。20 歳代、50 歳以上の年齢層は他の年齢層にくらべて極めて低い割合であった。



過去 1 年間の HIV 抗体検査受検割合は全体で 29.0% であり、40 歳以上の年齢層で他の年齢層にくらべて低い割合であった。

過去 1 年間に受検した検査場所 (複数回答) は阪神圏の保健所が多く 57.4%、次いで病院が 14.9%、chot CAST なんばが 13.9% であった。

また生涯受検経験がない回答者の「これまでに HIV 抗体検査を受けなかった理由」について、全体では「機会がなかった」が最も高く 37.9%、次いで「HIV に感染している可能性がない」が 35.6%、「結果を知るのが怖い」が 22.1% であった。年齢層別には 49 歳以下では「機会がなかった」が 35.2%-44.7% と最も高く、50 歳以上では「HIV に感染している可能性がない」が 43.2%-60.7% と最も高い割合であった。

D. 2010 年度研究の進捗状況のまとめ

2007 年度から 2010 年度までの研究の進捗状況の概要を表 1~4 に示した。研究計画に示した「MSM 対象の啓発普及・広報」「MSM 対象の検査体制の整備」「相談 (陽性者等の支援)」および「効果評価のための調査・研究」の各項目について体制を整備したのち、2009 年度から 2010 年度は各地域で介入を展開した。

広報により検査を希望するものが増加した場合、その受入となる検査機関が確保され、かつ受検者への対応、とくにゲイ・バイセクシュアル男性の受検者にはセクシュアリティへの理解に基づく対応が必要である。受検時の対応によってはその後の検査行動にも影響し、それが口コミによって受検行動の広がりにも影響することも考えられる。首都圏では 2010 年度も継続的に保健所等の検査担当者を対象とした研修会 (セクシュアリティ理解、MSM 対応のロールプレイ、MSM 対象の検査広報の工夫など) を自治体や保健所の担当者として協議しつつ実施することができた。また阪神圏では電話相談「陽性者サポートライン関西」や感染を知って間もない人を対象としたグループプログラム「ひよっこクラブ」を展開した。

首都圏では 2008 年度には上記の研修会などを通じて関係が得られた検査機関を Web や紙

媒体の資材を通じて広報する「あんしん HIV 検査サーチ」を開始した。HIV マップによって適切に社会資源にアクセスできる体制を準備し、「あんしん HIV 検査サーチ」の広報により検査の必要な人が受検できる体制を連携するシステムを 2009 年度から 2010 年度に整備し、最終年度は首都圏の MSM を対象として、エイズ発症前に検査受検をテーマとしたキャンペーンを展開した。本キャンペーンは、6 月から 2 ヶ月ごと、4 期に分けアウトリーチによってゲイ向け商業施設を中心に展開した。ポスター、リーフレットなどの紙資材とキャンペーンサイトを同期させコミュニティへの一貫した広報戦略を展開した。

阪神圏では、クリニック検査に力点を置き、本戦略研究に協力するクリニックを 3 医療機関から 7 医療機関に増やすことができた。2009 年度までのクリニック検査キャンペーンでは検査件数は少ないが、HIV 陽性率が高く、その意義が認められた。2009 年度に続き 2010 年度は 5 月から 12 月末まで実施し、広報による周知を促進し、HIV 陽性者のための電話相談体制とも連動した啓発普及を行った。実施期間中検査件数は徐々に増加し 12 月まで増加が続いた。また、予防啓発を行っても HIV 検査会場になかなか足が向かない MSM を対象に、『PLuS + FINAL』の会場において HIV 即日検査会「MaQ」を大阪市を初め、様々な組織との協働で実施した。参加者は 214 名、リスク査定により受検することになった人数は 172 名、途中キャンセルが 3 名で最終的な受検者数は 169 名となった。迅速検査による一次スクリーニング検査と確認検査の結果、抗体陽性者は 6 名となり、陽性率は 3.6%であった。

エイズ予防のための戦略研究で与えられた目標は、HIV 検査件数の倍加とエイズ発症での報告数を減少することである。MSM を対象とした本研究課題では、2009 年度までに、MSM を対象とした広報のためのネットワーク構築、検査

機会を確保するための検査機関、医療機関との関係構築、そして HIV 感染や HIV 検査に伴う不安や悩みへの支援体制の構築を進め、2010 年度には介入を実施した。

戦略研究実施期間中に首都圏および阪神圏においてウェブサイトや相談体制が整備され、2011 年度には事業化される予定である。この他にも保健師向けの研修モデルやクリニックと協働した検査体制モデル、イベントでの即日検査に関するモデルなど得られた成果は大きい。また経年的に MSM を対象とした調査を実施し多くの貴重なデータを得ることができ、今後はさらに詳細な分析が必要である。

E. 健康危険情報： なし

F. 研究発表

- 1) 市川誠一：男性同性間の HIV 感染予防対策、特集:HIV/AIDS, 日本臨床, 2010, 68(3), 546-550
- 2) 市川誠一：HIV/AIDS 対策への取組み, 総合臨床, 2010, 59(3), 416-420
- 3) 塩野徳史, 市川誠一：MSM の HIV 感染対策におけるコミュニティセンター事業の意義, 病原微生物検出情報, 2010, 31(8), 229-230
- 4) 市川誠一：MSM における HIV 感染者/AIDS 患者の現状と予防戦略, 特集 再考：HIV/AIDS 予防対策, 公衆衛生, 2010, 74(11), 906-909
- 5) Seiichi Ichikawa, Noriyo Kaneko, Jane Koerner, Satoshi Shiono, Akitomo Shingae, and Toshihiro Ito: Survey investigating homosexual behaviour among adult males used to estimate the prevalence of HIV and AIDS among men who have sex with men in Japan, *Sexual Health*, 8(1), 123-124, 2010.

G. 知的財産権の出願・登録： なし

表1 エイズ予防戦略研究課題1・首都圏地域における2007-2008年の進捗状況

2007年度	MSM対象の啓発普及・広報	MSM対象の検査体制の整備	相談（陽性者等の支援）	効果評価のための調査・研究
<ul style="list-style-type: none"> ・啓発資材の開発と啓発キャンペーン実施、商業施設での資材配布(累計12000部) ・予防・検査・相談・治療の情報を包括的にまとめたインターネットサイト(HIVマップ)の開発と公開、宣伝 ・中高年MSMが利用するゲイタウン関係者との関係構築 ・スポーツ系・文化系サークル、メディアとの関係構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM受検者への相談・対応研修会の実施 ・MSM向け検査実施機関のリストアップとネットワーク構築、協力の依頼 ・自治体の検査イベントへの広報等での協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM向け相談窓口を開設している機関のリストアップ ・MSM向け相談が対応可能なNGO等との連携構築 ・HIVマップに掲載 	<ul style="list-style-type: none"> ○主要効果評価のための検査件数、受検者アンケートの実施協力依頼 ○副次的効果評価のための調査 ・インターネット調査 ・RDS調査実施に向けた調整 	
<ul style="list-style-type: none"> ・携帯版「HIVマップ」サイトの開発、インターネットサイト「HIVマップ」の宣伝、コンテツの充実、キャンペーンと連動しサイト訪問者を増やす ・中高年MSMの利用するゲイタウン内商業施設での啓発の開始 ・スポーツ系、文科系サークルでの啓発を実施 ・多様なMSMを対象にした啓発としてクラブイベントパーティーの主催者等と連携を図る(11月-1月末までに複数のクラブイベントと協働キャンペーン実施) ・上野・浅草の地域でのタウンミーティング ・若年のMSM層を含む大学生を対象にした啓発資材配布(八王子市保健所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・MSM受検者への相談・対応研修会、講習会の実施(東京都、神奈川、千葉で実施) ・自治体の臨時HIV抗体検査イベントの広報協力(神奈川、横浜、東京など) ・クリニック(しらかば診療所)でのHIV検査の実施 ・Web「あんしん検査サイト」に戦略研究研修会参加保健所・協力機関を広報するリスト作成とwebの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットサイトに「HIVマップ」にMSM向け相談窓口の紹介 ・自治体、拠点病院、NGO、検査機関等にインターネットサイトを紹介し、検査と相談をつなぐことを目指す ・ドラッグの支援団体、聴覚障害者の支援団体と共同で資材作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○主要効果評価のための検査件数、受検者アンケートの東京、横浜地域で継続実施 ・神奈川県HC、土日検査機関で実施 ○副次的効果評価のための調査として、文科系サークル、スポーツ系サークルメンバーを起点にRDS調査を実施 ・Living Together キャンペーンに関わった人へのRDS調査 ・商業施設(ゲイバー)利用者調査の実施 	

表 2 エイズ予防戦略研究課題 1・首都圏地域における 2009-2010 年の進捗状況

2009 年度	MSM 対象の啓発普及・広報	MSM 対象の検査体制の整備	相談 (陽性者等の支援)	効果評価のための調査・研究
<p>・エイズ発症予防のための「できる！」キャンペーンの展開。PC 版および携帯版「HIV マップ」の更新と広報。Web サイト「HIV マップ」と「できる！」キャンペーンの連動。</p> <p>・上野・浅草、新橋地域、横浜地域など中高年 MSM の利用するゲイタウン商業施設での啓発やタウンミーティングの継続、紙媒体の啓発資料「TOMARIGI」などを配布。</p> <p>・東京レズビアン・ゲイフェスティバル、新宿レインボー祭り、スポーツ系、文科系サークル、MSM を対象にしたクラブイベント主催者等との協働キャンペーン (11 月-12 月末)、東京 FM との協働による Living Together: Think about AIDS の放送などで、多様な MSM 層への啓発、若年 MSM 層を含む大学生対象の啓発 (八王子市保健所) を実施した。</p>	<p>・MSM 受検者への相談・対応研修会、講習会の実施 (東京都、神奈川、千葉で実施)</p> <p>・自治体の臨時 HIV 抗体検査イベントの広報協力、実施要員の派遣 (東京、神奈川、千葉など)</p> <p>・Web「あんしん HIV 検査サーチ」に MSM の HIV 検査に対応する戦略研究協力機関リストを掲載し広報 (紙媒体、Web)</p> <p>・横浜にて MSM 対象の臨時検査 (SHIP での検査) 実施。</p> <p>・クリニック (しらかば診療所) での HIV 検査の実施。</p>	<p>・インターネットサイト「HIV マップ」、携帯版のコンテンツを充実する、サイト訪問者を増やすためのビジュアルなどを工夫して、広報を継続した。</p> <p>・Web 版「お役立ちナビ」に MSM 向けの HIV 関連情報を掲載し、受検や受療支援を整備した。</p> <p>・自治体、拠点病院、NGO、検査機関等にインターネットサイトを紹介し、検査と相談の連携を図った。</p>	<p>○主要効果評価 HIV 検査受検者動向、受検者アンケートの継続実施。 東京、神奈川、千葉地域で継続実施</p> <p>○副次的効果評価調査 文化系サークル、スポーツ系サークルのメンバーを起点にした RDS 調査、Living Together キャンペーンに関わった人への RDS 調査の実施、460 件の回答。 ・2008 年度実施のゲイバー等の商業施設利用者調査の地域別、年齢別の特徴を分析。</p>	
<p>・AIDS 発症予防のための「できる！」キャンペーンを第 1 期 (6-7 月)、第 2 期 (8-9 月)、第 3 期 (10-11 月)、第 4 期 (12-1 月) に分けて展開した。キャンペーンのテーマを統一し、認知の上昇を図るために各期のデザインを多様に変化させた。</p> <p>・2 ヶ月毎にキャンペーン資料 (パンフレット、ポスター) をゲイタウン商業施設に配布 (総計 18920 部) し、Web サイト「HIV マップ」の PC 版および携帯版で「できる！」キャンペーンと連動し、ネット利用層に広報した。</p> <p>・上野・浅草、新橋地域、横浜地域など中高年の MSM が利用するゲイタウン商業施設で継続して、紙媒体の啓発資料「TOMARI-GI」な</p>	<p>・MSM 受検者への相談・対応研修会、講習会の実施 (東京都、神奈川、千葉で実施)</p> <p>・自治体の臨時 HIV 抗体検査イベントの広報協力、実施要員の派遣 (東京、神奈川、千葉など)</p> <p>・「あんしん HIV 検査サーチ」に MSM の HIV 検査に対応する戦略研究協力機関リストを掲載し広報 (紙媒体、総配布数 1600 部)。また検査利用者体験談も広報。</p> <p>・「できる！」キャンペーングッズに臨時検査情報を掲載し広報 (紙媒体、web)。</p>	<p>・インターネットサイト「できる！」キャンペーンと連動させ、「HIV マップ」、PC 版、携帯版での広報を継続した。</p> <p>・Web 版「お役立ちナビ」に MSM 向けの HIV 関連情報を更新し、受検や受療支援を整備した。</p> <p>・自治体、拠点病院、NGO、検査機関等にインターネットサイトを紹介し、検査と相談の連携を図った。</p>	<p>○主要効果評価 HIV 検査受検者動向、受検者アンケートの継続実施。 東京、神奈川、千葉地域で継続実施</p> <p>○副次的効果評価調査 文化系サークル、スポーツ系サークルのメンバーを起点にした RDS 調査、Living Together キャンペーンに関わった人への RDS 調査の実施、341 件の回答。 ○MSM コミュニティにおけるブ</p>	

	<p>どを配布した（総計4284部）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京レズビアン・ゲイパレード、新宿レインボー祭り、スポーツ系、文化系サークル、MSMを対象にしたクラブイベント主催者等との協働キャンペーン、東京FMとの協働によるLiving Together: Think about AIDSの放送などで、多様なMSM層への啓発を実施した。 ・「できる！」キャンペーンに関連する新たな紙媒体の広報資材を商業施設やクラブイベントで配布した。また、インターネット(PC版、携帯版)サイトによる啓発も連動した。コンテンツには、検査情報を盛り込み、訴求性の高い資材とした。 ・最終年度は、年間を通しての広報普及計画をたて、訴求性のある資材とともに、定期的に取り組みした検査機関情報を、様々な媒体(紙、紙、MSMが利用するWeb・雑誌、イベント、商業施設、サークル活動、放送など)によって、多様なMSMに向けて提供した。 ・上野・浅草、新橋、八王子、横浜、千葉県は、MSMへの啓発を始めて戦略研究が開始した地域である。戦略研究の終了により、これらの地域での取り組みが継続されなくなった場合、構築したMSMコミュニティへの予防啓発が停止することとなり、社会的な問題点を残すことになる。 <p>戦略研究で取り組んできた啓発活動を継続する取り組み(予算と人材の確保)が必要となる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜にてMSM対象の臨時検査(SHIPでの検査)実施。 ・クリニック(しらかば診療所)でのHIV検査の実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・MSM向け検査機関としての保健所を確保するには、MSM対応の研修会は有効であり、2010年度も3地域(東京、神奈川、千葉)で研修会を実施した。 ・MSM向け「あんしんHIV検査サーチ」による広報を実施した。 ・戦略研究に関わる中で、保健所エイズ担当者は、MSMに向けて検査機会を提供することの必要性を理解するようになった。 ・戦略研究後にも、保健所とNGO/NPOとの協働関係を継続する体制構築が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・首都圏ではNGO等の電話相談があり、これらHIVマップで紹介する体制を継続できた。 ・開発したWebサイトHIVマップやできるキャンペーンサイトの中で、検査行動を促す仕掛けを考案した。検査利用者体験談や「お役立ちナビ情報」へのアクセスに変化がみられ、効果があったものと考えられる。 ・HIVマップは、HIVに関する総合サイトとして有用であり、継続が望まれ、戦略研究終了後の運営方法等を検討する必要がある。 	<p>プログラム認知や検査行動を把握するバナー顧客調査を2月に実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主要評価項目調査 調査機関確保は東京、神奈川、千葉ではほぼ達成した。 ○副次的効果評価調査 ・RDS携帯電話調査は3年間継続して、実施した。 ・MSMコミュニティにおけるプログラム認知や検査行動を把握するバナー顧客調査を2月に実施している。
<p>計画の進行状況と課題</p>				

表3 エイズ予防戦略研究課題1・阪神圏地域における2007-2008年の進捗状況

	MSM対象の啓発普及・広報	MSM対象の検査体制の整備	相談（陽性者等の支援）	効果評価のための調査・研究
2007年度	<ul style="list-style-type: none"> 啓発資材の作成とクラブイベント、商業施設での配布。 街頭でのスライドショーの実施。 インターネットサイト（PC版、携帯版）の開発と公開。 大規模のHIV・AIDS予防啓発イベントPlus+実施（10月）。 	<ul style="list-style-type: none"> 大阪市、大阪府への協力依頼。 大阪土曜日常設検査に協力依頼。 STDクリニック検査キャンペーンの試行-3クリニックと連携。 新規HIV検査機関「Hot Cast なんば」との協力関係の調整。 	<ul style="list-style-type: none"> 陽性者サポートライオン関西の発足。 地域の陽性者への相談にかかわる専門職へのワークショップ、連携作り。 HPサイトの開設と宣伝。 陽性者サポートライオン活動の報告会実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 主要効果評価のための検査件数、受検者アンケートの実施協力依頼。 副次的効果評価のためのRDS調査の実施。 MSM商業施設利用者数推定のための人口調査の実施。 中高年の啓発ニーズアセスメントのためのインタビュー調査実施。
2008年度	<ul style="list-style-type: none"> インターネットサイト（PC版、携帯版）のコンテンツの充実とネットワーク構築（リンク）と広報。 各ベニューの特性に合わせた啓発資材を開発・作成し、MSM向け商業施設での資材配布による広報を実施した（大阪地域のMSMが利用する商業施設の約60%）。 ゲイ向け商業施設・非利用者への啓発とした映像プログラム（スライドショー）を実施した（3回）。 大規模のHIV・AIDS予防啓発イベントPlus+2008実施（10月）、のべ12000人、（実数6000人、内MSMが67%）。 	<ul style="list-style-type: none"> STD等のクリニック検査キャンペーンの本格始動-7クリニックと連携、検査キャンペーンを実施。 クリニックでの針刺し事故とHIV暴露事故への対策マニュアルの整備。 新規のHIV検査機関「Hot Cast なんば」との協力関係調整。 	<ul style="list-style-type: none"> 陽性者サポートライオン関西のHPサイトの宣伝。 地域の相談にかかわる専門職ゲースカルフォアレンスの実施。 当事者支援グループミーティング準備。 	<ul style="list-style-type: none"> 主要効果評価のための検査件数、受検者アンケートの継続実施。神戸市、堺市、京都府、京都市の協力参加。 副次的効果評価イベントPlus+2008でのRDS調査350件の回答、兵庫、京都のゲイ向け商業施設等を起点として実施。 Plus+イベント来場者調査（MSM割合の推定も含む）。 中高年の啓発ニーズアセスメントインタビュー調査の実施。

表4 エイズ予防戦略研究課題1・阪神圏地域における2009-2010年の進捗状況

2009年度	MSM対象の啓発普及・広報	MSM対象の検査体制の整備	相談(陽性者等の支援)	効果評価のための調査・研究
<p>・インターネットサイト(PC版、携帯版)のコンテンツの充実とネットワーク構築(リンク)を進め、クリニック検査キャンペーンを広報した。</p> <p>・ゲイ対象の商業施設の特性に合わせた啓発資料を作成し、MSM向け商業施設での資料配布により検査キャンペーンを広報した。</p> <p>・ナイトプロジェクト(クラブパーティーでの資料配付、16イベント、5200人)。</p> <p>・ハッテン場への啓発資料配付により検査キャンペーンを広報した(57,900枚)。</p> <p>・ゲイ向け商業施設の非利用者を対象とした啓発映像(スライドショー)を実施した。</p> <p>・大規模のHIV・AIDS予防啓発イベントPlus+2009実施(10月)。昨年度と同様の延べ11,677人(実数5,406人、内MSMが67%、3600人)であった。</p>	<p>・STD等のクリニック7機関と連携した検査キャンペーンを5月から開始した。</p> <p>・検査数は、月ごとに増加し、12月末終了時に272件を数え、月当たりの受検者数は10件から34件に増えた。</p> <p>・MSMが利用する商業施設が多い地域に近いクリニックに受検者が集中する傾向にある。</p> <p>・大阪で新規に開設されたHIV検査機関「Hot Cast なんば」との協力関係を検討したが、同機関に運用上の課題があり、積極的な関わりができなかった。</p>	<p>・HPサイトでプログラムを広報した。</p> <p>・地域支援者のネットワークを構築するためケーシングを実施した。</p> <p>・電話相談事業の継続実施(23件/年)。</p> <p>・HIV陽性者対象のグループミーティングを実施した(2クール、6回)。</p>	<p>○主要効果評価</p> <p>HIV検査受検者動向、受検者アンケートの継続実施。神戸市、堺市、京都府、京都市に協力参加の継続を依頼。</p> <p>○副次的効果評価</p> <p>RDS調査はPLuS+2009会場で416件、兵庫、京都のゲイ向け商業施設等を起点とした回答を含め623件を得た。</p> <p>・Plus+イベント来場者調査は、配布数1,513枚、有効回収数1,096件(72.4%)、来場者の67%がゲイ・バイセクシュアル/MSMであった。</p> <p>・中高年の啓発ニーズアセスメントインタビュー調査の継続</p>	<p>○主要効果評価</p> <p>HIV検査受検者動向、受検者アンケートの継続実施。神戸市、堺市、京都府、への協力参加の継続依頼</p> <p>○副次的効果評価</p> <p>・PLuS+FINAL来場者調査は、配布数1966枚、有効回収数1487件(75.6%)の回答を得た。</p> <p>来場者の63%がゲイ・バイセクシュアル/MSMであった。</p> <p>・協力したSTDクリニックでのMSM向け検査キャンペーン参</p>
<p>・インターネットサイト(PC版、携帯版)のコンテンツの充実とネットワーク構築(リンク)を進め、クリニック検査キャンペーンの広報を進めた。</p> <p>・ゲイ・バイセクシュアル男性が利用する施設(クラブパーティー)の特性に合わせて啓発資料を作成し、MSM向け商業施設への資料配布により検査キャンペーンの広報を進めた。(配布資料総計47,486セット)</p> <p>・ナイトプロジェクト(クラブパーティーでの資料配付、6イベント、1550セット)</p> <p>・ハッテン場における検査促進のためのポスター掲示(195枚)。</p> <p>・大規模のHIV・AIDS予防啓発イベント</p>	<p>・STD等のクリニック7機関と連携した検査キャンペーンを5月から開始した。</p> <p>・検査数は、10月以降に著しく増え、12月末終了時には263件で、月当たりの受検者数は2009年と同様の32件であった。陽性率は5.7%であった。</p> <p>・2009年と比較して、2010年のクリニック検査キャンペーンでは、7医療機関に受検者が分散するといった傾向が見られた。</p> <p>・イベントPLuS+来場者を対象とした迅速検査会を実施した。</p>	<p>・HPサイトでプログラムを広報した。</p> <p>・地域支援者のネットワークを構築するためケーシングを実施した。</p> <p>・電話相談事業の継続実施(23件/年)。</p> <p>・HIV陽性者対象のグループミーティングを実施した(2クール、6回)。</p>	<p>○主要効果評価</p> <p>HIV検査受検者動向、受検者アンケートの継続実施。神戸市、堺市、京都府、への協力参加の継続依頼</p> <p>○副次的効果評価</p> <p>・PLuS+FINAL来場者調査は、配布数1966枚、有効回収数1487件(75.6%)の回答を得た。</p> <p>来場者の63%がゲイ・バイセクシュアル/MSMであった。</p> <p>・協力したSTDクリニックでのMSM向け検査キャンペーン参</p>	<p>○主要効果評価</p> <p>HIV検査受検者動向、受検者アンケートの継続実施。神戸市、堺市、京都府、への協力参加の継続依頼</p> <p>○副次的効果評価</p> <p>・PLuS+FINAL来場者調査は、配布数1966枚、有効回収数1487件(75.6%)の回答を得た。</p> <p>来場者の63%がゲイ・バイセクシュアル/MSMであった。</p> <p>・協力したSTDクリニックでのMSM向け検査キャンペーン参</p>

	<p>PLUS+FINAL を実施した (10 月)。昨年度と同様の延べ 14142 人、(実数 6320 人、内 MSM が 63.2%、推定 4000 人) の参加があった。</p>	<p>PLUS+イベントに来て初めて検査情報に触れて 169 人が受検した。受検者総数での陽性割合は 3.6%、MSM 受検者 147 名での陽性割合は 4.1%、関西居住 MSM118 名での陽性割合は 5.1%であった。</p>		<p>加者の動向に関する調査を計画通り実施した。</p> <p>○MSM コミュニティにおけるプログラム認知や検査行動を把握するバー顧客調査を 2 月に実施している。</p>
<p>計画の進捗状況と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2007 年度は研究計画に基づくプログラム策定、戦略研究広報ロゴ作成、啓発対象に合わせた資料開発・普及法を検討し試行し、2008 年度はこれらの啓発プログラムの普及拡大を図った。 2009 年度は、2008 年度まで構築した、Web、紙媒体、大型啓発イベントの広報を活用して、STD 等のクリニックでの検査キャンペーンを中心にした広報を実施した。 2010 年度は、2009 年度に引き続き、開発した資料と大型啓発イベントで、クリニック検査キャンペーンの広報を計画通り実施し、終了した。 戦略研究で新たに啓発を拡大した阪神圏の商業施設への啓発活動が、戦略研究の終了により継続されなくなると、構築した MSM コミュニティへの予防啓発が停止する可能性があり、社会倫理的な問題点を残すことになる。戦略研究で取り組んできた啓発活動を継続する取り組み (予算と人材の確保) が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> クリニック検査キャンペーンでは 2009 年から受検者増が見られ、2010 年もほぼ同程度の受検者数となった。またキャンペーン受検者中の陽性割合も高い。 2009 年、一部の保健所等では新型インフルエンザの対応に迫られ、HIV 検査の受入に支障が生じ、検査件数の減少を招いた。戦略研究に協力した STD クリニックではインフルエンザによる影響は無かった。 2010 年度は、クリニック検査キャンペーンに結びつく効果的な広報と実施を計画通り実施した。クリニック検査キャンペーンの参加者数が毎月一定数あったことから、MSM コミュニティにおいてクリニック検査が浸透したものと考えられる。戦略研究が終了するが、これら 7 クリニックによる受検機会の確保と増大を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 確認検査前の相談件数も増加し、このプログラムのニーズが示されている。相談員 2 人が研修を経て育成された。 2010 年度も計画通り週 1 回の電話相談を実施した。 新規陽性者対象のグループミーティングを 2 クール、計 6 回実施した。 今後は、相談日を増やすなど電話相談体制の強化が必要である。 新規陽性者を支援するプログラムは、戦略研究によって初めて地域に導入することができたもの。他地域への事例となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 副次的効果評価のための調査はほぼ計画を達成した。 PLUS+来場者調査、RDS 携帯電話調査は 3 年間継続して、実施した。1 月時点では集計中である。 最終年度 2 月にコミュニティにおけるプログラム認知や検査行動を把握するためのバー顧客調査を実施する。

表5 首都圏地域における戦略研究の進捗状況(2010年度)

実施内容	総数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		コンセプト構築とキャンペーン準備	第1期：セックスできる(ツイークス) ファーセックス	第1期：セックスできる(ツイークス) ファーセックス	TFMコラボ(4)	第1期 キャンペーングッズ配布	第2期：すぐできる(検査情報ア クセス) TOKYO Pride Parade(17)	第2期 キャンペーングッズ配布	第3期：話ができる(相談情報ア クセス) Gayasian Games in TOKYO(17-20)	第3期 キャンペーングッズ配布	第4期：話ができる(相談情報ア 予防) TFMコラボ(17)	第4期 キャンペーングッズ配布	
検査・啓発キャンペーン「できる!」													
バーアウトリーチ「できる!」													
配布店舗数	1892			480			502	453		457			
配布数	18920		4800	5020			5020	4530		4570			
TOMARI-GI				TOMARI-GI7号			TOMARI-GI8号			TOMARI-GI9号			
配布店舗数	1428		483				480			465			
配布数	4284		1449				1440			1395			
ハッテン場アウトリーチ「できる!」				月例アウトリーチ開始(1)				24会場コラボレーション開始(4)					
配布店舗数	109			15	14	14	20	20	22	19			
配布数	2280		300	300	280	280	200	200	700	400			
クラブキャンペーン「できる!」				2	6	7	5	3	6	3			
配布数	8345		200	300	1635	1650	2450	900	910	2150			
サークル啓発「できる!」				スポーツ大会	文化系音楽会	スポーツ大会	スポーツ大会	スポーツ大会	スポーツ大会	スポーツ大会			
配布数	1600		200	200	200	200	200	200	200	200			
HIVマップ/HIVマップmobile				第1期 キャンペーンサイト	第2期 キャンペーンサイト	第3期 キャンペーンサイト	第4期 キャンペーンサイト	第3期 キャンペーンサイト	第4期 キャンペーンサイト	第4期 キャンペーンサイト			
配布数	1480		10186セッション	10153セッション	11480セッション	11833セッション	9156セッション	10160セッション	10586セッション	9360セッション			
あんしんHIV検査サーチ(パンフレット/web)				あんしんHIV検査サーチ紙版	あんしん東側マップ配布開始	あんしん東側マップ配布開始	あんしん東側マップ配布開始	あんしん東側マップ配布開始	あんしん東側マップ配布開始	あんしん東側マップ配布開始			
配布数	1480		910	230	80	80	80	40	220	220			
保健師研修				活動報告・意見交換会(7)	神奈川研修(2)								
参加者数			62	30名(11)	39名								
検査キャンペーン				検査イベント	検査イベント	検査イベント	検査イベント	検査イベント	検査イベント	検査イベント			
RDS法調査				文化系Prelude	文化系Prelude	文化系Prelude	文化系Prelude	文化系Prelude	文化系Prelude	文化系Prelude			
有効回答数				160名	121名	60名	60名	60名	60名	60名			
バー・アンケート				2008年度実施分析	2008年度実施分析	2008年度実施分析	2008年度実施分析	2008年度実施分析	2008年度実施分析	2008年度実施分析			
質的調査				調査実施・分析中	調査実施・分析中	調査実施・分析中	調査実施・分析中	調査実施・分析中	調査実施・分析中	調査実施・分析中			
調査				2010年度実施準備	2010年度実施準備	2010年度実施準備	2010年度実施準備	2010年度実施準備	2010年度実施準備	2010年度実施準備			
				結果速報開始	結果速報開始	結果速報開始	結果速報開始	結果速報開始	結果速報開始	結果速報開始			
				2010年度実施	2010年度実施	2010年度実施	2010年度実施	2010年度実施	2010年度実施	2010年度実施			

表6 阪神圏地域における戦略研究の進捗状況(2010年度)

実施内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
普及啓発	ゲイ向け商業施設全体への クリニック検査キャンペーン広報	準備期間 配布資料 配布日 配布店舗数 配布枚数	クリニック検査 広報冊子 告知用ポスター 5月14日～ 22日 冊子6500部・ポスター195枚 上記資料を配布 上記参照	検査広報紙冊子は既出 トール期間 7月18日～ 19日 15330枚 18800部 上記資料を配布 上記参照	クリニック検査広報紙 カード・トーム 7月18日～ 19日 15330枚 18800部 上記資料を配布 上記参照	検査広報紙冊子とコン ドームセットは既出 10/10 301部 全備 1000部 上記資料を配布 上記参照	検査広報紙冊子とコン ドームセットは既出 10/10 301部 全備 1000部 上記資料を配布 上記参照	イベントプログラム (Plus+) 広報冊子へのク リニック検査広告掲載 9月10日～ 30日 全備 1000部 上記資料を配布 上記参照	イベントプログラム (Plus+) 広報冊子へのク リニック検査広告掲載 10/10 301部 全備 1000部 上記資料を配布 上記参照	クリニック検査広報 冊子 11月12日～ 19日 193部 5850部 上記資料を配布 上記参照	検査広報紙 冊子 12/11 20部 上記資料を配布 上記参照			
	祭場における 受検行動促進プログラム	配布資料 配布日 配布枚数	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照			
	クラブ・パーティ会場における 受検行動促進プログラム	配布資料 配布日 配布枚数	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照	上記資料を配布 上記参照			
	近畿2府4県無料検査 エイズ検査施設検査	主要コンテンツ アークス数(PC) アークス数(携帯) クリニック検査ページ アークス数(PC) アークス数(携帯)	4101セッション 1854セッション 1597セッション 394セッション 682セッション	4788セッション 1959セッション 2491セッション 422セッション 715セッション	5146セッション 2491セッション 2227セッション 810セッション 1201セッション	5325セッション 2785セッション 2834セッション 978セッション 1228セッション	5325セッション 2785セッション 2834セッション 978セッション 1228セッション	5325セッション 2785セッション 2834セッション 978セッション 1228セッション	5325セッション 2785セッション 2834セッション 978セッション 1228セッション	5325セッション 2785セッション 2834セッション 978セッション 1228セッション	5325セッション 2785セッション 2834セッション 978セッション 1228セッション	5325セッション 2785セッション 2834セッション 978セッション 1228セッション	5325セッション 2785セッション 2834セッション 978セッション 1228セッション	5325セッション 2785セッション 2834セッション 978セッション 1228セッション
	インターネットにおける 受検行動促進プログラム	主要コンテンツ アークス数(PC) アークス数(携帯)	341セッション 348セッション 382セッション	387セッション 596セッション 841セッション	443セッション 561セッション 1882セッション	395セッション 682セッション 2002セッション	441セッション 1308セッション 7181セッション	441セッション 1308セッション 7181セッション	441セッション 1308セッション 7181セッション	441セッション 1308セッション 7181セッション	441セッション 1308セッション 7181セッション	441セッション 1308セッション 7181セッション	441セッション 1308セッション 7181セッション	441セッション 1308セッション 7181セッション
	公共空間における 受検行動促進啓発イベント	広報紙およびイベント企画 資料配布枚数・来場者数 配布資料 配布日 配布店舗数 配布枚数												
	中産年層を対象とした 受検行動促進プログラム	配布資料 配布日 配布店舗数 配布枚数												
	京阪神在住MSM対象クリニック検査キャンペーン	クリニックでの受検受付期間 利用者数 実施日 利用者数												
	無広報の迅速検査	実施日 参加者数 相談電話件数												
	新規陽性支援プロジェクト	実施日 参加者数 相談電話件数												
	POSP広報	実施日 参加者数 相談電話件数												
	公共空間における 受検行動促進啓発イベント プログラム群	回答者数												
	ゲイ向け商業施設利用者 を対象とした質問調査	回答者数												
	検査	年間合計	263											
相談・支援	準備期間													
調査	準備期間													

表7 首都圏のバー顧客調査結果 - 検査行動に関する項目

	年齢階級						合計	カイ 2乗値							
	24歳以下	25-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳									
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?															
ある	70	44.0%	161	64.4%	452	64.2%	256	60.0%	71	49.7%	23	34.8%	1033	59.1%	0.00
ない	88	55.3%	88	35.2%	246	34.9%	170	39.8%	71	49.7%	41	62.1%	704	40.3%	
無回答	1	0.6%	1	0.4%	6	0.9%	1	0.2%	1	0.7%	2	3.0%	12	0.7%	
合計	159	100.0%	250	100.0%	704	100.0%	427	100.0%	143	100.0%	66	100.0%	1749	100.0%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?															
ある	43	27.0%	84	33.6%	220	31.3%	104	24.4%	23	16.1%	11	16.7%	485	27.7%	0.00
ない	26	16.4%	70	28.0%	209	29.7%	137	32.1%	40	28.0%	9	13.6%	491	28.1%	
1年以上前に陽性と確認	1	0.6%	6	2.4%	21	3.0%	14	3.3%	7	4.9%	3	4.5%	52	3.0%	
答えたくない	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.1%	
非該当	89	56.0%	89	35.6%	252	35.8%	171	40.0%	72	50.3%	43	65.2%	716	40.9%	
無回答	0	0.0%	0	0.0%	2	0.3%	1	0.2%	1	0.7%	0	0.0%	4	0.2%	
合計	159	100.0%	250	100.0%	704	100.0%	427	100.0%	143	100.0%	66	100.0%	1749	100.0%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けた場所はどこですか?															
病院	6	14.0%	16	19.0%	51	23.2%	24	23.1%	8	34.8%	2	18.2%	107	22.1%	0.33
診療所・クリニック・医院	9	20.9%	18	21.4%	38	17.3%	27	26.0%	8	34.8%	3	27.3%	103	21.2%	0.23
首都圏の保健所・保健センター	25	58.1%	45	53.6%	97	44.1%	40	38.5%	9	39.1%	5	45.5%	221	45.6%	0.20
東京の保健所・保健センター	12	27.9%	28	33.3%	64	29.1%	31	29.8%	5	21.7%	2	18.2%	142	29.3%	0.61
神奈川の保健所・保健センター	3	7.0%	11	13.1%	19	8.6%	7	6.7%	4	17.4%	2	18.2%	46	9.5%	0.30
千葉の保健所・保健センター	4	9.3%	4	4.8%	7	3.2%	2	1.9%	0	0.0%	1	9.1%	18	3.7%	0.22
その他の保健所・保健センター	6	14.0%	5	6.0%	8	3.6%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	20	4.1%	0.02
南新宿検査・相談室	4	9.3%	8	9.5%	43	19.5%	13	12.5%	3	13.0%	2	18.2%	73	15.1%	0.19
多摩地域検査相談室	0	0.0%	2	2.4%	3	1.4%	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	7	1.4%	0.61
SHIP・STD性感染症検査	2	4.7%	3	3.6%	5	2.3%	3	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	13	2.7%	0.60
自宅/郵送検査	1	2.3%	2	2.4%	5	2.3%	7	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	15	3.1%	0.24
その他	1	2.3%	3	3.6%	10	4.5%	1	1.0%	0	0.0%	1	9.1%	16	3.3%	0.34
合計	43	100.0%	84	100.0%	220	100.0%	104	100.0%	23	100.0%	11	100.0%	485	100.0%	
HIV抗体検査(エイズ検査)を受けなかった理由は下記のうち、どれにあてはまりますか?															
結果を知るのが怖いから	16	18.2%	28	31.8%	80	32.5%	54	31.8%	17	23.9%	8	19.5%	203	28.8%	0.09
HIVに感染している可能性がない	34	38.6%	28	31.8%	77	31.3%	82	48.2%	43	60.6%	24	58.5%	288	40.9%	0.00
興味ままにしておきたい	5	5.7%	7	8.0%	36	14.6%	14	8.2%	2	2.8%	2	4.9%	66	9.4%	0.02
どこで検査を受けたら良いかわからない	17	19.3%	17	19.3%	26	10.6%	19	11.2%	8	11.3%	4	9.8%	91	12.9%	0.14
機会(時間や場所など)がなかった	38	43.2%	42	47.7%	109	44.3%	50	29.4%	15	21.1%	13	31.7%	267	37.9%	0.00
お金がかかるから	7	8.0%	3	3.4%	8	3.3%	5	2.9%	0	0.0%	1	2.4%	24	3.4%	0.15
感染を疑われるから	4	4.5%	6	6.8%	11	4.5%	15	8.8%	5	7.0%	2	4.9%	43	6.1%	0.40
ゲイ・バイの説明が面倒だから	7	8.0%	12	13.6%	26	10.6%	26	15.3%	13	18.3%	6	14.6%	90	12.8%	0.24
その他	7	8.0%	7	8.0%	13	5.3%	8	4.7%	3	4.2%	5	12.2%	43	6.1%	0.32
合計	88	100.0%	88	100.0%	246	100.0%	170	100.0%	71	100.0%	41	100.0%	704	100.0%	

表 8 阪神圏のバー顧客調査結果 - 検査行動に関する項目

	年齢階級						合計	カイ 2乗値							
	24歳以下	25-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳									
これまでにHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?															
ある	100	38.2%	140	57.4%	250	58.5%	145	48.8%	42	35.9%	16	36.4%	693	49.8%	0.00
ない	162	61.8%	103	42.2%	177	41.5%	152	51.2%	74	63.2%	28	63.6%	696	50.0%	
無回答	0	0.0%	1	0.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	0	0.0%	2	0.1%	
合計	262	100.0%	244	100.0%	427	100.0%	297	100.0%	117	100.0%	44	100.0%	1391	100.0%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けたことがありますか?															
ある	79	30.2%	91	37.3%	138	32.3%	66	22.2%	20	17.1%	10	22.7%	404	29.0%	0.00
ない	16	6.1%	40	16.4%	95	22.2%	69	23.2%	19	16.2%	6	13.6%	245	17.6%	
1年以上前に陽性と確認 されたくない	3	1.1%	3	1.2%	12	2.8%	7	2.4%	3	2.6%	0	0.0%	28	2.0%	
非該当	1	0.4%	5	2.0%	3	0.7%	1	0.3%	0	0.0%	0	0.0%	10	0.7%	
無回答	162	61.8%	104	42.6%	177	41.5%	152	51.2%	75	64.1%	28	63.6%	698	50.2%	
合計	262	100.0%	244	100.0%	427	100.0%	297	100.0%	117	100.0%	44	100.0%	1391	100.0%	
過去1年間にHIV抗体検査(エイズ検査)を受けた場所はどこですか?															
病院	7	8.9%	14	15.4%	21	15.2%	13	19.7%	2	10.0%	3	30.0%	60	14.9%	0.42
診療所・クリニック・医院	4	5.1%	16	17.6%	14	10.1%	9	13.6%	4	20.0%	1	10.0%	48	11.9%	0.28
阪神圏の保健所・保健センター	51	64.6%	52	57.1%	82	59.4%	31	47.0%	12	60.0%	4	40.0%	232	57.4%	0.41
大阪の保健所・保健センター	33	41.8%	40	44.0%	69	50.0%	26	39.4%	10	50.0%	2	20.0%	180	44.6%	0.51
兵庫の保健所・保健センター	5	6.3%	3	3.3%	6	4.3%	3	4.5%	1	5.0%	0	0.0%	18	4.5%	0.85
京都の保健所・保健センター	7	8.9%	3	3.3%	0	0.0%	1	1.5%	0	0.0%	2	20.0%	13	3.2%	0.00
その他の保健所・保健センター	10	12.7%	8	8.8%	11	8.0%	2	3.0%	1	5.0%	0	0.0%	32	7.9%	0.44
chatCASTなんば	12	15.2%	14	15.4%	17	12.3%	10	15.2%	3	15.0%	0	0.0%	56	13.9%	0.80
自宅/郵送検査	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%	2	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	0.7%	0.41
MaQ検査会	3	3.8%	5	5.5%	6	4.3%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	15	3.7%	0.70
その他	8	10.1%	5	5.5%	6	4.3%	6	9.1%	1	5.0%	1	10.0%	27	6.7%	0.62
合計	79	100.0%	91	100.0%	138	100.0%	66	100.0%	20	100.0%	10	100.0%	404	100.0%	
HIV抗体検査(エイズ検査)を受けなかった理由は下記のうち、どれに当てはまりますか?															
結果を知るのが怖いから	29	17.9%	33	32.0%	38	21.5%	36	23.7%	15	20.3%	3	10.7%	154	22.1%	0.07
HIVに感染している可能性がない	52	32.1%	27	26.2%	63	35.6%	57	37.5%	32	43.2%	17	60.7%	248	35.6%	0.01
興味なまましておきたい	20	12.3%	15	14.6%	24	13.6%	20	13.2%	12	16.2%	5	17.9%	96	13.8%	0.54
どこで検査を受けたら良いかわからない	20	12.3%	13	12.6%	18	10.2%	15	9.9%	7	9.5%	0	0.0%	73	10.5%	0.27
機会(時間や場所など)がなかった	57	35.2%	46	44.7%	78	44.1%	61	40.1%	19	25.7%	3	10.7%	264	37.9%	0.01
お金がかかるから	12	7.4%	12	11.7%	12	6.8%	5	3.3%	1	1.4%	0	0.0%	42	6.0%	0.02
感染を疑われるから	5	3.1%	6	5.8%	4	2.3%	8	5.3%	2	2.7%	0	0.0%	25	3.6%	0.24
ゲイ・バイの説明が面倒だから	15	9.3%	13	12.6%	15	8.5%	21	13.8%	7	9.5%	2	7.1%	73	10.5%	0.32
その他	14	8.6%	9	8.7%	9	5.1%	8	5.3%	1	1.4%	0	0.0%	41	5.9%	0.09
合計	162	100.0%	103	100.0%	177	100.0%	152	100.0%	74	100.0%	28	100.0%	696	100.0%	

